

平成28年度事業計画書

公益財団法人 北九州活性化協議会

目次

I	概況	……………P4
II	公益目的事業	
1	“もったいない”を未来に引き継ぐ事業 （もったいない総研事業）	……………P5
	1) 「北九州紙えこっパー」の普及に関する企画・研究の実施	
	2) “もったいない”の概念を踏まえたシビックプライドの醸成事業 （1）「北九州市民財産（仮称）」の発掘・活用事業の企画・研究 （2）工業都市・北九州の製造企業の社史の集約、活用推進事業	
2	産業人材を育成する事業 （北九州地域産業人材育成フォーラム事業）	……………P6
	1) 高度人材育成プログラムの企画、運営	
	2) 社会人育成プログラムの企画、運営	
	3) 青少年育成プログラム事業の企画、運営	
	4) 産業人材育成の地域クラスター形成に向けた環境整備	
3	次世代を担う人材を育成する事業 （「北九州の企業人による小学校応援団」事業）	……………P8
	1) 支援対象校の拡大	
	2) 支援事業の充実 （1）親学の理解促進 （2）PTAなどへの支援 （3）出前授業・研修の充実	
	3) 広報の充実	
	4) 支援事業管理システムの更なる充実	
	5) 支援体制の充実	
	6) 三者調整会議の開催	
4	都市格（文化力・教育力）を向上する事業 （「1000人の夢寄金」事業）	……………P10
	1) 「1000人の夢寄金」募金事業 （1）寄付募集体制の確立 （2）寄付金獲得のためのプロモーション事業の企画、運営	
	2) 「1000人の夢寄金」助成事業 （1）助成事業の募集 （2）助成先の選定	
	3) 広報・プロモーション事業の実施	

5	まちづくり推進事業	……………P11
1)	まちの活性化推進事業	
(1)	「KPEC 事業開発研究会」による新しい活動分野の調査・研究	
(2)	地域づくりネットワークの構築	
(3)	まちづくり事業の支援、協働の実施	
2)	まちの活性化に関する情報発信事業	
(1)	情報受発信の強化	
6	北九州イノベーションギャラリー指定管理者事業	……………P12
1)	教育普及に関する事業の企画、運営	
2)	調査研究に関する事業の企画、運営	
3)	企画展示に関する事業の企画、運営	
4)	映像・図書等収集及び公開に関する業務の企画、運営	
Ⅲ	法人運営業務	……………P18
1	会員募集と会員サービスの向上	
1)	会員募集の強化	
2)	会員サービスの向上	
2	寄付金事業の検討	
3	組織運営体制の強化	
1)	運営体制の整備	
(1)	事業運営体制の整備促進	
(2)	財務体質改善の推進	
(3)	事務局体制の強化	
4	会議等の実施	
(1)	定時理事会の開催	
(2)	評議員会の開催	
(3)	執行役員会議の開催	

I 概況

アベノミクスも4年目に入り、経済成長の新たな牽引役として国内総生産（GDP）を2020年までに600兆円に引き上げるなどの目標が並ぶ「新三本の矢」が出される中、国内経済は、金融緩和と円安に加え原油安が奏功し、企業の業況判断指数も全産業で好転してきた。しかし、中国経済の減速や原油価格の急落を受けて企業業績の勢いに陰りも見え、先行きの不透明感は拭かれていない。

一方で、中国の比較優位の低下による生産拠点としての地位に陰りが見え始め、世界経済の不透明感が増す中で、日中での単位労働コストの逆転現象も起き、日本企業の国内回帰の流れも生まれている。

こうした環境を背景に、北九州地域においても、生産環境の好転を受けて有効求人倍率の向上など雇用環境の改善に加え、規制緩和政策として北九州市が提案した、介護ロボットの実用化を後押しする「国家戦略特区」に北九州市が指定されるなど、地方創生の取り組みを後押しする体制も整いつつある。

また、昨年7月には、官営八幡製鉄所を中心とする明治産業革命遺産が世界文化遺産に登録され、100年に亘る産業史の再評価と都市資源再生と活用に向けた機運が盛り上がってきた。

国の地方創生戦略を受けて北九州市が進める「まち・ひと・しごと創生戦略」においては、「産業人材育成フォーラム事業」や「小学校応援団事業」が、雇用創出戦略やシビックプライドの醸成の推進策として選定されるなど、産学官民の連携軸として地域の環境づくりを進めるKPECへの中間管理機能（DO-TANK）としての期待が大きくなってきている。

平成28年度のKPEC事業は、上記の「北九州地域産業人材育成フォーラム事業」、「北九州の企業人による小学校応援団事業」の拡充と地域システム化を図ると共に、「1000人の夢寄金事業」の市民ファンド化の促進等、産学官連携による活性化事業の仕組み創りを推進する。

また、H27年度に企画研究をして来た「もったいない総研事業」については、シビックプライドの醸成を踏まえた新しい街づくり事業の事業化に向けた体制づくりを行う。

指定管理事業である北九州イノベーションギャラリー（KIGS）については、新体制の下で、世界文化遺産関連施策や産業人材育成事業等との連携も図りながら、KIGSに与えられた産業・技術継承とものづくり人材の育成等の設置目的の実現に向けた体制づくりを推進する。

また、こうした事業の拡充に対応した運営体制の整備と、経営の健全化のための財務体質の改善等についても並行して進める。

平成28年度の事業計画は以下のとおりである。

II 公益目的事業

当協議会（以下 KPEC）は、北九州市地域の活性化に関する調査・研究を行うとともに、行政及び関係団体と活性化施策の総合的な調整を行うことによって、北九州地域の発展に寄与することを目的としている。

平成28年度の個別の事業計画は以下のとおりである。

1 “もったいない”を未来に引き継ぐ事業（もったいない総研事業）

KPECの創立10周年事業として創設した「もったいない総研」の運営理念を踏まえた地域活性化事業の企画、開発及び事業化を行う。

本年度は、「もったいない総研事業検討会」を編成して方向性を検討してきた結果を踏まえた新規事業の事業化に向けた環境づくりを行う。

1) 「北九州紙えこっパー」の普及に関する企画・研究の実施

H27年度、「もったいない総研」が企画開発した「北九州紙えこっパー」は、資源循環型社会づくり施策の一環として北九州市が実施する『ていたんプリントえこっパー』に採択された。

本年度は、北九州市の環境政策とタイアップしたモニター活動を実施し、「えこっパー」の開発意義の周知を図ると共に、「えこっパー」の更なるブランドアップと普及・拡販を推進する。また、全国牛乳容器環境協議会や地元の乳飲料メーカーや製紙メーカーとタイアップし、小学校応援団事業と連携して「えこっパー」を使った環境教育を、北九州市内の小学校で実施する。

2) “もったいない”の概念を踏まえたシビックプライドの醸成事業

地方創生戦略の推進や明治の産業革命遺産の世界文化遺産登録等を契機に、シビックプライドの醸成が地域活性化の大きなテーマとなってきた。

そこで、“もったいない”の概念を踏まえたシビックプライドの醸成をテーマとした新しい「もったいない総研事業」の企画・研究を行う。

(1) 「北九州市民財産（仮称）」の発掘・活用事業の企画・研究

市民が評価する北九州市の産業、文化、社会、生活等の中にある“価値あるもの”を「北九州市民財産（仮称）」として、“もったいない”の概念を踏まえた新しいシビックプライドのコンテンツとして捉え、これを体系的整理し街づくりに活用していく、もったいない総研事業の企画、研究を行う。

また、北九州市民財産発掘・活用事業の内容と進め方を検討する研究会を編成し、事業理念の確立と事業化に向けた方向性を確認する。

(2) 工業都市・北九州の製造企業等の社史の集約、活用推進事業

北九州地域の100年余の産業史を構成する産業と技術が集約された製造企業等の社史の収集と体系的整理を行い、研究、教育、テクニカルビジット等に資する地域資源として活用する環境づくりを行う。

本事業は、北九州イノベーションギャラリーの調査・研究事業と連動して実施し、収集された資料は、KIGSのライブラリーに所蔵し活用に応えるものとする。

2 産業人材を育成する事業（北九州産業人材育成フォーラム事業）

北九州地域の中堅・中小企業の経営力強化と雇用環境の改善を図るとともに、産学協働による産業人材の育成を目的として、「北九州地域産業人材育成フォーラム」を編成し、青少年から社会人に至る産業人材育成の地域システム創りと、その持続的発展の仕組み創りを進める。

1) 高度人材育成プログラムの企画、運営

地域工学系大学・高専の学生を対象に、地域の中堅・中小企業と協働で開発、実施してきたインターンシップ事業について、5年間の事業実績と評価を踏まえ、「地域連携型インターンシップ」としての再定義を行い、産学双方の今日的ニーズを確認しながら、地域システムとしての事業運営体制の整備を行う。

(1) 地域連携型インターンシップ事業の拡充、実施

地域工学系大学・高専の学生を対象に、インターンシップの目的及び実施形態に対応した運営体制の編成を行い、実効性の高い事業運営とその運営システムの自立化を図る。

① 「研修型(仕事理解・採用直結)インターンシップ」事業の実施

職場・社会への円滑な移行のための社会人基礎力の育成と地元就職機会の創出等を目的としたインターンシップ事業を拡充、実施する。

(目標：参加校；5校、参加企業100社、参加学生；200人)

② 「実戦型(業務補助・課題協働・事業参画)インターンシップ」の実施

将来の産業を担う人材の育成のための教育プログラムとしてのインターンシップ事業を、各大学のフィジビリティを確認しながら開発、実施する。

(2) 「地域連携型インターンシップ」の運営システムの拡充及び

形態別インターンシップの運営体制の整備を進め、ステークホルダーの自律的連携を推進し、産学双方に有効な「地域連携型インターンシップビジネスモデル」の確立を推進する。

(3) 「地域連携型インターンシップ」事業の地域プロモーションの実施

インターンシップ実践セミナーの開催やガイドCD-ROMの製作等、事業の運営方法の研究成果の共有と事業の周知を図るためのプロモーション事業を実施する。

2) 社会人育成プログラムの企画、運営

中堅・中小企業の中核専門技術人材及び経営・管理人材のスキルアップ、リカレント教育を目的に、地域大学の制度環境を活用した「社会人育成プログラム」の企画開発及び事業化を実施する。

(1) 中堅・中小企業の中核専門人材育成に向けた環境開発

① 北九州ドクターチャレンジプログラム事業の実施

九州工業大学の「社会人プログラム」を活用し、中堅・中小企業の中核専門技術人材の博士号取得及び産学連携の環境づくりを行う。

② 北九州テクニカルカレッジ事業の事業化研究の実施

地域の中堅・中小企業が抱える人材開発や技術研修課題の解決のために、大

学研究者等による技術研修会、技術検討会等を行い、産学官の組織的な関係強化とともに企業の技開発力向上や中堅技術者育成を支援するテクニカルカレッジ事業を本格的に実施する。

(2) 中堅・中小企業の経営人材育成に向けた環境開発

北九州市立大学大学院マネジメント研究科（K2BS）等と連携して、MBA取得環境の醸成とK2BSの事業環境を活用した中小企業の経営力強化と経営・管理者育成のための事業の企画、開発と環境づくりを行う。

3) 青少年育成プログラム事業の企画、運営

中長期的な視点を持った産業人材の育成の必要性を踏まえ、工業都市-北九州ならではの産学官協働による**早期工学教育の在り方**の研究と教育システムの開発に向けた環境づくりを行う。

(1) 早期工学教育関連事業情報の専門サイトの設置と活用環境づくりの推進

北九州地域の教育関係機関が実施している早期工学教育関連情報を集約し、「北九州地域科学・工学教育情報マップ(仮称)」として専用サイトを作成し、関係者等による活用を促進する環境づくりを行う。

(2) ものづくり教育のコンテンツと教育システムの研究・開発の実施

「北九州地域ものづくり教育の在り方に関する研究会(仮称)」を編成し、北九州地域における早期工学教育の必要性の確認とその在り方を研究すると共に、北九州地域の代表的技術をテーマにしたものづくり教育のモデルカリキュラムづくりと教材開発を行う。

(3) 地域企業による早期工学教育プログラムの実施

「北九州の企業人による小学校応援団」事業等と連携した企業等による出前授業の実施及び中学校の職場体験学習と連携したものづくり教育の実施環境づくりを行う。また、藤田哲也博士と竜巻に関する授業の学習教材の開発及び関係資料の集約を藤田哲也記念会と連携して実施する。

4) 産業人材育成の地域クラスター形成に向けた環境整備

北九州市の「まち・ひと・しごと創生戦略」や「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COCプラス）」等の地方創生戦略との連携や、H27年度に実施した中間レビューを踏まえ、フォーラム事業についての政策議論を進めると共に、フォーラム事業の実施基盤である企業会員の募集と組織化を進め事業の推進基盤の整備を行う。

(1) フォーラム事業の地域システム化に向けた環境づくりの推進、整備

フォーラム事業を協働する地域企業の会員登録を進め、企業ニーズを踏まえたフォーラム事業を行うための環境づくりを進める。

(2) フォーラム事業の広報システムの構築とプロモーション事業の実施

「産業人材育成セミナー&産学連携・交流促進会」「産業人材育成フォーラムホームページ」の運用等、フォーラム事業の必要性と事業内容を周知するための各種事業を企画、開催すると共に、関連組織との連携を強化し、「北九州地域企業学内説明会」等の地域各種の方法を駆使した事業のプロモーションを実施する。

3 次世代を担う人材を育成する事業（北九州の企業人による小学校応援団事業）

北九州市内の企業や経済団体が結束して、北九州の将来を担う子どもたちの健全育成を目指し、北九州市内の小学校の児童、教員および保護者を対象に、児童の学習支援（出前授業、見学受け入れ）、教職員の研修支援（講師派遣、体験研修受け入れ）、保護者のPTA活動支援などの教育支援に取り組む。

1) 支援事業の推進

(1) 支援対象校の拡大

支援対象校を70校（平成27年度）から100校に拡大する。

（年次目標：H27年度：70校、H28年度：100校、H29年度：全130校）

(2) 参加企業等の拡大

引き続き参加企業等の拡大に取り組む。

(3) 学校担当コーディネーターによる支援事業のサポート体制の充実

小学校をサポートし、事務局と小学校との間をつなぐ架け橋として支援事業の周知と進捗状況の管理等を行うコーディネーターについて、シニアネット北九州及び夢追いバンクの協力をえて増員（H27年度14名）し、支援対象校の拡大に対応できるサポート体制の充実を図る。

(4) 支援事業の充実

企業等の協力を得て、親学の奨励、支援対象校の児童への出前授業、教職員・保護者（PTA）向けの研修等を継続実施すると共に、テーマ（講師）の更なる充実を図る。

(5) 親学の理解促進

① 「北九州市子どもを育てる10か条」の理解促進

子どもを育てる10か条（北九州市教育委員会作成）について、家庭教育学級の参加者や企業の従業員（主に父親）、更には広い範囲の人々の理解を深めるため、その趣旨、背景等の説明を加えたパンフレットを作成し、本質的な理解と実践に結び付くようにする。

(6) PTAなどへの支援

① PTA活動等を支援するための企業内環境づくりの促進

応援団参加企業に対して、PTA総会参加をはじめとする従業員のPTA活動への参画を支援する企業内環境づくり（職場理解を進める、特別休暇制度を創設する等）を呼びかける。

② 従業員のPTA総会など各種事業への参加促進

関係四者（P協、応援団、校長会、教委の連名で）連名でPTA総会及び学校開放週間等への参加について、参加企業を通じて保護者である従業員に、また学校を通じて直接保護者に呼びかける。

③ PTAに対する小学校応援団事業のPRの推進

PTAの中ではまだ小学校応援団の仕組み等が知られていない状況にある。そこで、PTA協議会及び各校長を通じて、小学校応援団事業について周知を図る取り組みを行うとともに、応援団事業を通じて生まれた児童のより良い変化や能力向上等の成果について、PTA関係者にPRする。

(7) 出前授業・研修の充実

① 出前授業の充実

企業人による応援団の特色はキャリア教育に関わることでもあることから、現在まだテーマが少ない「自社の職業紹介」・「ものづくり」についてテーマの充実（講師の充実等）に取り組む。出前授業に際しては、実際に携わっている仕事の内容や講師の子どもどものときの夢や気持ち、今の仕事に就くにあたって努力したこと（免許を取るために勉強したなど）、今の仕事での喜び、苦労・努力していることなどについて話してもらうこととする。

② 教職員への研修の充実

教職員の直面している大きな問題の1つにクレーム対応があるとされており、そのためと思われるが、クレーム対応に関するテーマへの申込みが大変多い。そこで、クレームへの適切な対応、またビジネスマナー等に関する研修の充実（講師の充実等）に取り組む。

③ 保護者（PTA）への研修の充実

保護者向け親学研修として、自社での取り組みを話す講師の充実に取り組む。研修に際しては、「社会が求める人材とは」、「会社が求める人材とは」、「会社における人材育成（社員育成）の工夫点（社員個々の特性を伸ばすための方策など）」などについて話してもらうこととする。

2) 管理体制の強化

(1) 広報の充実

小学校応援団の取組みに対する企業や市民団体、教育関係者等の理解を深め、協力の輪を広げるため、リーフレット等による広報活動を行うとともに、ホームページの内容の充実を進める。また、活動状況を報道機関に情報提供する。

(2) 支援事業管理システムの更なる充実

支援事業の申込みから実施、報告に至るまで、各学校と事務局等が情報を常に共有し、支援事業の活用とその運営管理を円滑・効率的に行うことができるようパソコンシステムを平成27年度から開設した。その後より使い勝手を良くするため必要な改良を行い、新システムは平成28年4月から稼働させることとしている。

そこで、28年度においても利用者の意見も踏まえ、更に充実が必要な点について見直すこととする。

(3) 三者調整会議の開催

支援事業の現状の共通認識と方針に係る調整のため、北九州市立小学校の教育支援に関する協定書（平成25年4月1日締結）に基づき、当協議会、北九州市教育委員会及び小学校応援団との三者調整会議を開催し、事業の円滑な推進を図る。

4 都市格（文化力・教育力）を向上する事業（1000人の夢寄金事業）

教育と文化を、都市格（都市の品格）を高める重要な基本要素と考え、北九州市の未来のために、このまちの教育力・文化力を共に育み、真に魅力あるまちづくりを進めて行くために、民間の力を結集し、教育や文化的活動を行う法人・個人・団体に対して活動費用を助成する「1000人の夢寄金」（以下、夢寄金）事業を推進する。

1) 「1000人の夢寄金」募金事業

1000人の夢寄金の趣旨に賛同し、1口3000円の寄付を行う市民による「1000人委員会」を編成し、寄付金募集の拡大を図ると共に、寄付金推進メンバーの組織強化を図り、事業の推進基盤の構築を図る。

(1) 寄付募集体制の確立

① 基本寄付（1口3000円）募集体制の再構築

募集方法及び募集メンバーを根本的に見直し、夢寄金の寄付基盤となる「1000人の夢委員会」の組織上の位置づけを確認し、これに対応した組織体制整備を行い、募金体制の整備・拡充を図る。

② 寄付金受け入れ方法の検討

KPECの寄付金事業と連携した、多様な寄付形態（遺贈、香典返し、チャリティー寄付金）に対応できる制度の研究と受け入れ態勢の整備を図る。

③ 寄付金受け入れのための環境整備の実施

i) Web機能を活用した寄付金受け入れ機能の拡充

ホームページの拡充、Facebookの活用、メーリングリストの使用頻度UP等を行い、寄付者の利便向上対策を推進する。

ii) 寄付者の安定化対策の実施寄付者に対する礼状を定期的に発送する。

(2) 寄付金獲得のためのプロモーション事業の企画、運営

① 1000人の夢寄金チャリティーゴルフコンペ企画・開催

平成26年度より実施している「1000人の夢寄金チャリティーゴルフコンペ」を継続開催する。

2) 「1000人の夢寄金」助成事業

「1000人の夢寄金」の趣旨を踏まえて助成先の募集及び選定方法を研究し、文化と教育分野で活躍する将来性のある団体及び個人に対する助成事業の拡充を図る。

(1) 助成事業の募集

北九州市の都市格を高めるために必要と思われる高質な将来性のある活動を行う団体及び個人の応募を得て助成事業を行う。

① 助成事業の応募促進対策の実施

北九州市の文化、教育関係分野や北九州市内の各種文化振興団体等及び既助成情勢組織との連携を図り、1000人の夢寄金の趣旨を周知すると共に、助成対象事業の発掘を促進する。

② 助成事業の実施状況及び助成効果の確認の実施

西南女学院大学の地域活性化活動メンバー（WILLウィル）による助成実施事業の活動状況の取材と報告による、助成効果の確認を行う。また、女子学生

の視点から捉えた夢寄金事業に対する提案等を行うと共に、地域情報を発信の仕組みも開発を実施する。

③ 助成先事業の紹介

ホームページ、Facebook で助成先事業を紹介し、助成先の新規開拓に繋げる。

(2) 助成先の選定

「1000人の夢寄金・審査委員会」による公平、公正、公明性ある助成先の選定を行う。審査項目の見直しや審査委員会運営方法の見直しなど実施する。

3) 広報・プロモーション事業の実施

「1000人の夢寄金」の周知を図り、寄付金の拡充と事業運営への志ある市民参加を促進すると共に、助成対象関係者の認知度を高めるための広報等を実施する。

(1) ホームページ及びFacebookの運営

ホームページおよびFacebookにて、寄付者情報、助成先情報、その他活動情報等をタイムリーに発信する。メーリングリストによる事務の効率化を同時に図る。

(2) 「1000人の夢寄金」事業報告書の作成

毎年5月に前年度事業報告書を作成し全寄付者宛て発送する。助成先の団体・個人の活動を認知させると共に新たな寄付者・助成先を開拓する。(年1回)

5 まちづくり推進事業

1) まちの活性化推進事業

(1) 「KPEC事業開発研究会」による新しい活動分野の調査・研究

H27年度にKPEC事業開発研究会で方向性を検討した、もったいない総研の新規事業として想定する「北九州市民財産発掘・活用事業」について、専門委員会を編成し、北九州市の「まち・ひと・しごと創生」の中心的テーマであるシビックプライドの醸成に係る地域活性化事業としての方向性とフィジビリティを確認する調査・研究等を行う。

(2) 地域づくりネットワークの構築

公益財団法人としての組織的環境を活用し、産学官連携による地域づくりの視点を踏まえた地域活性化事業を推進する。

① 北九州地域経済団体連携フォーラムの運営

北九州市内の経済団体による「北九州地域経済団体連携フォーラム(事務局：KPEC)」を編成し、各種の情報の共有と事業運営における連携、協働の環境づくりを行う。

i) 共同プロモーション事業の実施

各団体の保有する各種情報及び事業について、共同広報や参画支援等の事業運営にかかる協力、支援を行う。

ii) 「世界に広がる北九州の明日を考える講演会」の開催

北九州の都市づくりをテーマに、経済団体連携フォーラムの共催事業として「世界に広がる北九州の明日を考える講演会」を開催する。

② ABL Eサロンの運営、企画開催

会員企業及び地域活性化に取り組む市民等と、地域課題や地域政策などを共に学び、相互交流を促進するため、ABL Eサロンを企画、開催する。

③ 地域づくりネットワーク福岡県協議会への参画

「地域づくりネットワーク福岡県協議会」へ参画し、地域活性化施策の研究、調査及び研修を行うと共に、北九州市域の地域づくり団体との橋渡しを行う。

(3) まちづくり事業の支援、協働の実施

① 北九州ミュージックプロムナードの支援

平成8年にKPECの提唱で企画、開催され、北九州市民参加交流型の音楽フェスティバルとして定着している「北九州ミュージックプロムナード実行委員会」に参画し、運営を支援する。

② スポーツを通じて推進する地域活性化事業の企画、運営

官民協働で協議する「スポーツ振興による青少年健全育成実行委員会」に参画し、スポーツを活用した青少年育成のための事業企画及び運営を協働する。

③ 北九州市にぎわいづくり懇話会への参画

ビジターズ・インダストリー創出を目的とした「北九州市にぎわいづくり懇話会」に参し、行政と協働でにぎわいづくり事業の企画、実施を行う。

2) まちの活性化に関する情報発信事業

(1) 情報受発信の強化

KPECの運営趣旨と活動及び地域活性化に関する各種情報を地域に伝えることを目的に機関紙の発行及びホームページの運用を行う。

① KPECニュースの発行

KPECの運営及び事業を、KPEC会員及び関連団体に広く広報するために、KPECニュースを発行する。

(発行回数：年1回(5月)・発行部数：1000部)

② ホームページの運営

専用ホームページの充実を図りKPEC事業活動情報をタイムリーに発信する。

③ メール送信システムの整備

会員企業及び事業関連組織等のメーリングリストの整備を行い、セミナー等事業の円滑な運営に資すると共に、KPECの地域ネットワークの構築を行う。

6 北九州イノベーションギャラリー指定管理者事業

北九州イノベーションギャラリー(KIGS)は、北九州地域の「人材」「技術」「産業遺産」の3つの資産を活用し、新たなイノベーションへとつながる(1)人材活用・育成、(2)産業技術の保存継承(技術の知と心の継承)、(3)技術革新(イノベーション)の機会の創出を行い、人・知を結集し、北九州の発展に必要な新産業を生み出すとともに、博物館を媒体とした技術教育を通し、世界に貢献できる人材の育成を行うこ

とが目的である。

平成28年度は、第三期指定管理期間（H27年～H32年）の2年目に当たり、H27年度の明治の産業革命遺産の世界文化遺産登録等の、事業環境が変化する中で、計画設定した事業を着実に実施すると共に、「北九州地域産業人材育成フォーラム事業」等との連携を図りながら、新たにもものづくり教育・技能教育分野の拡充等の環境づくりを進め、北九州市及びKPECをはじめとした地域関連機関との産学官連携による事業の円滑な推進を図る。平成28年度事業計画は以下のとおりである。

1) 教育普及に関する事業の企画、運営

次世代の北九州を支えるイノベーターの育成を目的に、若手技術者や技術系大学生、工業高校生等を重点対象とした「ものづくり教育」事業を開発、実施するとともに、企業技術者や研究者、大学生、工業高校生等の交流の場を創出し、高度技術人材育成環境の構築を実施する。

また、「北九州地域産業人材育成フォーラム」と連携し、工業都市-北九州ならではの産学官協働による早期工学教育の在り方の研究と教育システムの開発に向けた環境づくりを行う。

さらに、北九州市の要請に基づき、北九州マイスターとの連携による「技能・技術の継承」を推進する「技能教育」の拡充のための環境づくりを行うと共に、従来の枠組みを越え、中長期的な視点に立った教育普及事業の計画編成とそれを実行するための体制づくりを行う。

(1) イノベーション啓発事業の企画・実施

青少年から社会人、そして一般市民など各世代に対する各種事業を推進することで、次世代イノベーターの創出、育成に向けた活動を行う。

① KIGS イノベーションフォーラムの企画、開催

次世代のイノベーターの育成を目的に、産業界や現代社会における技術動向や関心が高いと思われるテーマと講師を選定し、「KIGS イノベーションフォーラム」を企画、開催する。

② 地域ものづくり未来フォーラムの企画、開催

地域のものづくりの現状や課題等について、産業界とともに教育関係者や行政等を交え意見交換する集いを新たに企画し実施する。

③ 技術革新セミナー

各工業系分野における最先端のイノベーション事例を学ぶため、時流に即した年度テーマを設定して具体的な製品開発等の事例を取り上げたセミナーを企画、開催する。

（年度テーマ） 人知はコンピュータをどこまで進化させられるか(予定)

・第1回；スーパーコンピュータ「京」が拓く世界（5月予定）

・第2回；人工知能の未来（10月予定）

④ デザインセミナーやデザインフェスティバルの開催

企画展「グッドデザイン賞 in 北九州」と連動したデザインセミナーを開催するとともに、北九州総合デザイナー協会等の関連組織と連携したデザイン振興に係る事業を企画、開催する。

⑤ その他の普及講座

産業の歴史や遺産、技能などを扱う市民向けセミナー、見学ツアー、産業映像上映のほか、調査研究報告や出前講座、インターンシップ受け入れなどを行う。

(2) 専門的かつ実践的なワークショップの企画・実施

世の中で言われている青少年の理数離れに歯止めをかけ、工学や科学に興味・関心を持つきっかけになるような各種事業を企画・推進することで、ものづくりマインドの醸成を図る。

① 「小学生向けの工作教室」等の実施

ステップアップ方式やクラブ活動要素を取り入れた小学生向けの工作教室の拡充、及び工業系大学生が主体的に進める小中学生向けワークショップを企画、実施する。

② 「東田たたらプロジェクト」の継続実施

関連企業や工学系大学等と連携して、古代たたら製鉄の体験事業「東田たたらプロジェクト」を継続実施する。

③ 「東田サマースクール」の継続実施

夏季休暇を利用し、環境ミュージアムやいのちのたび博物館とも連携した4日間連続の体験プログラムを実施。各施設の設置目的、役割に応じた特色あるプログラムを展開する中で、ものづくりの大切さを小学生に体感させる。

④ 「世界一行きたい科学広場 in 北九州」の継続実施

九工大等と連携して地域の高校生や大学生が主体となって小中学生に対する理数系教育支援のひとつとして工作や実験等を行う「世界一行きたい科学広場 in 北九州」を開催する。

⑤ 既存の枠に囚われない工作体験プログラムの企画、実施

KIGSの強みであるアナログものづくりと時流に乗ったデジタルものづくりを融合させた工作教室をFablabなど地域のリソースと協業した形も含めて企画、実施する。

⑥ 工業系大学や地域のものづくり企業と連携したワークショッププログラムの企画、実施

九州工業大学と連携した航空人材育成を目的としたワークショップや、北九州市内のものづくり企業と協業したオリジナルワークショッププログラムを企画、実施する。

⑦ 団体向け講習への対応

来館者や利用者の増加を図るため、修学旅行や企業研修等の誘致活動と併せて、より魅力を感じるものづくり体験プログラムを実施する。

(3) 関連機関及び関連事業等との連携による効果的な事業推進

北九州地域産業人材育成フォーラム 青少年育成プログラム研究プロジェクトに参画し、KIGSの中期的な事業運営の方向性を踏まえた早期工学教育のあり方の研究と教育システムの開発に向けた環境づくりを行い、連携事業の開発を進める。

① 「北九州地域科学・工学教育情報マップ(仮称)」事業への参画

北九州地域の早期工学教育関連情報を集約し、その活用環境を構築する「北九州地域科学・工学教育情報マップ(仮称)」事業に参画し、KIGS事業の広報、プロモーション環境の拡充を図る。

② ものづくり教育のコンテンツと教育システムの研究、開発の実施

北九州地域企業の技術をテーマにした、ものづくり教育の教材の研究、開発プロ

ジェクトに参画し、KIGSにおけるものづくり教育実施環境づくりを行う。

③ KIGSにおけるものづくり教育の拡充に向けた環境づくり

産業人材育成フォーラムが編成する「北九州地域ものづくり教育のあり方に関する研究会(仮称)」に主体的に参画し、北九州地域における早期工学教育の必要性とそのあり方の研究を行うと共に、KIGSの事業運営基盤の確立を目指す。

④ 藤田哲也博士をコンテンツにした理工系人材育成支援事業の研究

H26年度にKIGSにおいて開催した藤田哲也展のフォローアップ事業として、藤田哲也記念会が実施する“藤田哲也博士と竜巻等に関する学習教材開発”を支援し、KIGSにおける活用、展開の可能性を含めた検討を行う。

(4) 技術継承事業の企画・実施

① 実践的スキル研修のプログラム開発と企画運営

(i) 技能レベル向上を目的とした北九州マイスターを活用による工業高校生向けの技能向上研修を工房等を利用して精力的に実施するとともに、各学校への北九州マイスター派遣などの事業も拡げていく。

(ii) 西日本工業大学の学生を対象とした各種技能士資格取得講座の開催を支援する。

(iii) 技術士会や関連団体などと協業したイベントも精力的に開催していく。

2) 調査研究に関する事業の企画、運営

KIGSの調査研究事業は、北九州市の産業技術の保存継承、今後の更なるイノベーションの実現、またそのための人材育成に資することを目的に計画実施してきた。

第3期の実施事業については、第2期までの実施状況と北九州地域の現状を踏まえ、① 北九州ならではの産業技術やデザインの歴史に関する調査研究、② 国内外の様々なイノベーションに関する調査研究、③ 年表ギャラリー展示更新に必要な調査研究を中心に調査研究を実施することとしている。

しかし、平成27年7月に、官営八幡製鐵所の4施設を含む「明治日本の産業革命遺産」が世界文化遺産に登録されたことにより、そのプロモーション事業について、H27年度については、当面KIGSを中心に対応してきたが、今後においてもKIGSが一定の役割を果たすことが求められている。

平成28年度は、このような世界文化遺産の登録を踏まえ、当初設定した第3期事業計画に加え、次の調査研究に取り組む。

調査研究の成果は北九州を始め国内の企業、学校、一般市民等に公開し、それぞれの事業、教育、自己研鑽等への活用を促していく。

調査研究に当たっては、企業、大学、技術士会等の有識者と協業するとともに、北九州市、国立科学博物館と連携していく。

(1) 北九州ならではの産業技術やデザインの歴史に関する調査研究

テーマ(案):「北九州における耐火煉瓦技術の歴史と発展」(自主研究)

(2) 国内外の様々なイノベーションに関する調査研究

テーマ(案):「顕微鏡の系統化調査」(共同研究:国立科学博物館)

テーマ(案):天然・合成ゴムの開発と応用(自主研究)

(3) 年表ギャラリー展示更新に必要な調査研究

北九州市に於ける当館調査研究結果報告審議に沿って補完調査を行う。

(4) 北九州の製造企業の社史の収集、活用推進

長い技術・製品開発の歴史を持つ北九州地域の製造企業の社史を収集し、K I G Sのライブラリーにて所蔵・公開し、企業経営や技術開発の体系的調査研究等への活用を促進する。本事業は、北九州市及びK P E C「もったいない総研」と連携して実施する。

(5) 製鉄技術史に関する調査研究についての検討（世界遺産関連）

製鉄技術史については、平成 19 年～21 年度の3カ年で調査研究を実施し、K I G Sの調査研究報告書として刊行している。ただ、製鉄技術発展の歴史を十分に調査できているとはいえない上に、広く活用できる内容とも言い難い。このような状況と世界文化遺産登録を機に、北九州市と協働で「製鉄技術史」の調査研究の方向と活用内容の検討を行う。

3) 企画展示に関する事業の企画、運営

産業技術の保存継承(技術の知と心の継承)、技術革新(イノベーション)の機会の創出に資する各分野の情報技術を地域に披瀝する企画展を3回(春・夏・秋冬)と特別展を企画、開催する。企画展の開催に当たっては、関連するコンベンション企画も企画し、事業開催成果の向上を目指す。

あわせて、貸室として世界文化遺産に関する常設展を継続する。

(1) 実施内容及び時期等

区分	開催期間	分野	テーマ(仮称)	概要
継続	H28.1.23. ～ H28.4.10	デザイン	「2015 年度 グッドデザイン賞 In 北九州および 同時開催連動展	H24 以来、当館の大きなテーマの1つであるプロダクトデザインを扱う2回目の企画展。東京しか公開されなかった受賞製品をいち早く九州へ集結させ地元で初公開。
春	H28.4.23 ～ 7.3	精密 機械	「時のかたち展」	時間の概念の変遷から精度へのこだわり、機能性の追求迄、歴史や進化ならびに知恵と工夫について一般にわかりやすく興味深くゾーニング。
夏	H28.7.23 ～10.10	電子	「デジタル体験」	しくみデザインプロデュースによるデジタル体験を軸とした面白ろ体験プログラム。
秋冬	H27.10.30 ～3.14	素材 化学	「ゴムのちから展」 Part1/2	関連団体・学会の協力を得て、天然ゴム・合成ゴムの様々な役割や活躍について、体験やデモ機を配し多方向からあぶりだし、その潜在力や可能性について、会期中展示品を一部入れ替え明示。
特別 展	ラウンジにて 通年実施	歴史	「北九州の近代化遺 産展」	①春展 「北九州市発展基盤となった交通・土木遺産等」を写真 ^パ 祉と実物で紹介。 ②夏展 「明治の下関要塞から昭和の製鐵所・造兵廠を守った軍事・戦争遺産」を写真 ^パ 祉で紹介。

4) 映像・図書等収集及び公開に関する業務の企画、運営

当施設のテーマであるイノベーション、産業技術、デザインに関する映像・図・資料等を収集し、アーカイブの充実を図るとともにライブラリーや情報システムを通じて広く公開し、学習や研究活動を情報面から支援していく。

(1) 図書、雑誌、資料等の収集・公開

① 図書・資料の収集

KIGS の目的と利用者のニーズを確認し、図書購入及び資料の収集計画を編成して、図書および情報資料の収集と体系的整理を行う。

また、企画展の企画、開催と連携して関連資料の拡充、整備を図る。

産業史の資料拡充の一貫として、調査研究事業で計画する製造業の社史の収集及び整理を実施する。

② ライブラリーの運営

利用者アンケートや要望を反映させ、スタッフの質的向上などサービス充実に図り、知名度向上とリピーターの拡大につなげる。

(2) 技術情報の映像データの制作・公開

① 技術情報の映像データ制作の実施

北九州の産業を代表する技術の保存・継承について、調査研究事業との関係も踏まえて、映像化が必要と考える技術情報等の映像データの作成計画を編成し実施する。

本年度は、製鉄業を支える耐火煉瓦技術について、環境を調査し、地域の関連企業と連携して映像データの制作を行う

② 映像の公開

i) 上映会の開催

企画展、各種講演、イベントと連携した解説付きの上映会を開催する。なお、団体客利用時は、その訪問目的に応じたテーマ映像を組み込む。

ii) 映像データの貸出等の利用の促進

制作、ファイリングしてある映像データの活用については、華南系機関への情報提供及び活用促進施策を行うと共に、KIGS の広報計画と連動して、地域への周知を図る。

Ⅲ 法人運営業務

1 会員募集と会員サービスの向上

1) 会員募集の強化

当協議会の経緯・事業内容を纏めた『KPECパンフレット』を活用して、賛助会員募集を行い、財務面、運営面双方の経営体質強化を図る。

2) 会員サービスの向上

会員管理体制の整備により、KPECが実施または支援する各種地域活性化事業への案内、及び行政や他団体からの講演会開催等の情報提供の徹底を図り、会員との協働による地域活性化事業の推進体制を構築する。

2 寄付金事業の検討

「公益財団法人」としての税法上優遇措置の強みを活かし、1000人の夢寄金をはじめ、各事業への指定寄付等を含め、KPECが公益寄付の受け皿となる寄付金事業の創設についての検討を行う。

3 組織運営体制の強化

1) 運営体制の整備

(1) 事業運営体制の整備促進

主要事業運営の外部化等の運営体制の改善、強化を図ると共に、各事業のステークホルダーとの分掌体制の整備促進を図る。

(2) 財務体質改善の推進

業務改革が奏功して、H26年度決算において黒字転換を図る事が出来たが、ここで構築した事業運営フレームの維持、改善を行うと共に、賛助会員の募集の強化と資金運用効率の向上に努め、更なる財務体質改善に向けた経営努力を行う。

(3) 事務局体制の強化

KPEC事業の周知により社会的評価の向上を図り、KPEC事業に対する地域企業の協力環境を醸成すると共に、雇用延長制度等の実施を踏まえ地場企業の人材活用環境の開拓を行う。

4 地域連携促進事業

1) 「スポーツ振興チケット」事業の継続実施

地域活性化のシンボルであるJ2サッカーチームの「ギラヴァンツ北九州」と連携して、親子セットで試合参観ができる「KPECスポーツ振興チケット」を制作し、北九州地域の小中校生・少年サッカーチームおよびその父兄に配布し、サッカーを通じたスポーツ振興と健全な青少年育成を図る。

5 会議等の実施

定款等に基づき、所定の会議を開催する。

- | | |
|---------------|---------------|
| (1) 定時理事会の開催 | (6月、2月) |
| (2) 評議員会の開催 | (定時：6月、臨時：3月) |
| (3) 執行役員会議の開催 | (月1回) |